

普及活動情勢報告（平成 29 年 6 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

嶺北で農業を！～農業担い手育成センターで産地紹介～



研修生に嶺北を紹介

5 月 18 日、農業担い手育成センターの研修生 12 人を対象に嶺北地域の農業を紹介し、就農に向けた情報を提供しました。普及所からは産地の概要や新たに作成した米ナス・花きの産地提案書について説明しました。大豊町からは、大豊町山村農業実践センターでの研修生募集や近年増えてきたトマト農家について紹介しました。(株)れいほく未来からは、法人の概要、研修生の受入状況や独立就農に向けた支援について紹介しました。

研修生は、ほぼ就農先は決まっているようでしたが、就農への支援策を中心に質問も多数出ました。

普及所は、今後も農業担い手育成センターと連携し、嶺北地域への就農者が増えるように積極的に情報交換をしていきます。

奨励品種決定調査現地試験の苗質を調査



苗質調査の様子

5 月 22 日、普及所は所内で奨励品種決定調査現地試験の苗質を調査しました。

現在、県内の普通期用品種として「ヒノヒカリ」「にこまる」が栽培されていますが、耐病性(特にいもち病)、白未熟粒の多発による品質低下が課題となっています。

そのため、いもち病に強い高品質良食味品種を選定するため、「恋の予感」「関東 263 号」について現地試験を行っています。

苗質調査(草丈、葉齢、乾物重を測定)の結果、今年度は全体的に生育が遅く、一部の品種では徒長傾向であることが分かりました。

今後、普及所では生育、収量、品質について調査し、現地適応性を評価します。

農村女性の平成29年度活動開始～大豊地区農漁村女性グループ研究会総会～



総会後の加工作業

5 月 30 日に、大豊町農業センターで大豊地区農漁村女性グループ研究会の会員、普及所、町担当者 8 人が出席して総会が開催されました。

総会では普及所が総会資料を説明し、平成 28 年度の活動及び収支の実績、平成 29 年度の活動及び収支の計画が承認されました。総会后、各活動計画の日程等の調整を行い、小中学校での郷土料理伝承講習会、農家レストラン、碁石茶せんべい等町内農産物加工品の販促活動、地区外の女性グループとの交流などに力を入れることになりました。

普及所は、郷土料理の伝承や 6 次産業化の取組を支援していきます。

田んぼアートの田植えを実施～本山町特産品ブランド化推進協議会～



参加者全員で田植え

6月4日、本山町吉延のほ場で、(一財)本山町農業公社、生産者、高知大学生、本山小学生など計40人が参加して、異なる色の葉姿を持つ稲を植えて田にキャラクターや字を描く「田んぼアート」の田植えが行われました。

普及所では、育苗管理、完成図を想像しながら、大学生・小学生への田植えについて指導しました。

田植え後に行われた交流会では、生産者から「SNS等幅広いネットワークを使って、ブランド米(土佐天空の郷)の魅力を伝えて欲しい」と大学生に対する期待の声が聞かれました。

「田んぼアート」の見頃は7月中下旬ですが、普及所はこれからもブランド米の販売促進活動を支援します。

今年も集落営農組織で地域の農業を盛り上げます ～伊勢川集落営農推進委員会～



活動計画を熱心に
話し合う組合員

6月5日に、土佐町伊勢川集会所において伊勢川営農組合の推進委員会が開催され、組合員8人が参加しました。普及所は町、JAと連携し、ウメ、チョロギ、シソ等協業品目の栽培・加工指導、学習会等組織活動の活性化を支援しています。

今回の推進委員会では、水稻作業受託、園芸、直販・加工の各部会の活動状況や計画を共有し、組織内での役割分担、地域農業を盛上げる交流活動の開催等について話し合いました。

普及所では、今後も集落営農組織のステップアップを目指し、支援していきます。

シシトウの目慣らし会を開催



主要病害虫の防除対策を指導

6月5日に、JA土佐れいほく園芸部シシトウ部会は大田口支所と本所で目慣らし会を開催し、部会員40人が参加しました。

園芸連から出荷規格について、普及所から今後の栽培管理と病害虫防除について指導しました。

参加者からは「予防剤や治療剤を散布するタイミング」や「バンカーシートのメリット」についての質問がありました。

今後、普及所は高品質、安定生産を目指し、病害虫対策に加えて夏期の施肥・かん水管理などについても指導していきます。

「大豊とまと」の現地検討会



熱心に観察する生産者

6月15日、大豊町の有機栽培トマト農家を中心に組織された「大豊とまと」では生産者10人、大豊町職員1人、普及所3人が参加して、生産者全員のほ場を巡回して生育状況を確認しました。

現地検討会の開催は、昨年の9月に続いて2回目でしたが、普及所では収穫開始前の状況を皆で確認して栽培管理の参考にしてもうらおうと、代表と相談して評価表を準備しました。また、ほ場では園主から工夫点などを紹介してもらいました。

参加者からは「天候に恵まれて順調に生育しているが、梅雨期に入りして着果負担とならないように草勢を強めに維持したい」「天敵昆虫や微生物防除剤を有効に活用したい」などの声が聞かれました。

普及所は、今後も栽培技術が向上するよう、気づきに繋がる活動を支援します。

ホウレンソウの目慣らし会を開催



現地ほ場で収穫状況を見る

6月15日に、JA土佐れいほく園芸部ホウレンソウ部会は大川村のほ場で目慣らし会を開催し、部会員6人が参加しました。普及所では夏期の栽培管理について、高温対策を中心に指導しました。

部会長からは「乾燥しやすいので、土壌の乾き具合に注意してかん水する」「病害虫の発生が多いので、十分観察する」と自らの経験による注意点が話されました。

今後、普及所は巡回指導で病害虫対策に加えて施肥・かん水管理などについて指導し、高温期の安定生産を目指します。

第1回嶺北地区農業改良普及推進協議会を開催！ ～普及指導計画や地域課題解決について協議～



活発に意見交換

6月22日、今年度の普及指導計画について、農家代表者とJA、町村関係機関などの委員12人が参加し、今年度1回目の「普及推進協議会」を普及所で開催しました。普及所の職員も全員出席しました。

会では普及所から、普及指導計画書の総合課題と個別課題、GAPの取組について、また中山間地農業ルネサンス事業について説明し、地域別農業振興計画の情報を共有しました。

委員からは、「ユズ農家の所得拡大に向け、無農薬栽培の付加価値を付けた加工品販売拡大が必要」「高齢者による直販所向け野菜栽培への指導要望」など活発な意見が出され、地域課題や対策の共有を図ることができました。

普及所は、委員から出された意見を踏まえ、現状から将来の地域農業の姿を描き、課題解決に向け、今後の普及活動に生かしていきます。

第1回嶺北地域実行委員会を開催！
～全国農業担い手サミットinこうち開催に向けて～



熱心に協議中

6月22日、今年度1回目の嶺北地域実行委員会を普及所で開催しました。農家代表をはじめ、JAや町村関係機関などの委員等18人が参加しました。

会では普及所から、情報交換会と現地研修会の参加案内予定者や支出計画書などの案を説明し、JAや関係機関への動員についても協力を依頼しました。

委員からは「情報交換会への女性農業者の参加を増やした方がよい」などの意見が出され、女性農業者へ参加を働きかけていくことになりました。

普及所は、10月のサミットが成功するよう、委員と一丸となって取り組んでいきます。